

1. 研究課題名：

日本海及び周辺域の大気・海洋における有機汚染物質の潜在的脅威に関する研究



2. 研究代表者氏名及び所属：

早川 和一（金沢大学医薬保健研究域薬学系）

3. 研究実施期間：平成 25～27 年度

4. 研究の趣旨・概要

環日本海諸国は世界で最も激しく、急速に発展している地域である。しかし、化石燃料の大量消費に伴って放出される有害化学物質や農薬による大気・水環境の汚染は、この地域全体の潜在的な脅威になっている。住民の健康を保持し、水産資源を保護するためには、これらの汚染を正確に把握して適切な防止対策を講じる必要がある。本研究は、化石燃料の燃焼に由来して発生するベンゾ[a]ピレンに代表される多環芳香族炭化水素類（PAHs）と、農薬やダイオキシンなど難分解性有機汚染物質類（POPs）を対象として、この地域における発生や輸送、二次反応、負荷などを明らかにする。作成される環日本海域の汚染マップとシュミレーションモデルは、これら化学物質汚染の将来予測を可能にし、国内外の効果的な施策の選択と実施に貢献できる。

5. 研究項目及び実施体制

本プロジェクトは、次の4サブテーマで実施体制で構成されている。

サブテーマ（1）「大気・海洋環境中の PAHs 及び放射性核種の起源と動態の把握に関する研究」（国立大学法人金沢大学）

サブテーマ（2）「大気・海洋環境中の POPs 条約指定物質の起源と動態の把握に関する研究」（独立行政法人国立環境研究所）

サブテーマ（3）「大気・海洋環境中の PAHs 類二次生成と毒性化の解明に関する研究」（国立大学法人京都大学）

サブテーマ（4）「日本海及び周辺域の有機汚染物質の発生・輸送と海洋負荷の解析に関する研究」（一般財団法人日本環境衛生センター）

6. 研究のイメージ

